



支部だより

No. 162

日本山岳会京都・滋賀支部

2026年3月15日

日本山岳会創立 120 周年 記念式典及び記念晩餐会

野村綾子

日本山岳会創立 120 周年記念式典と年次晩餐会が新宿京王プラザホテルにおいて放送各社の取材を受け盛況に開催されました。式典の前には2つの講演「エベレスト最大の謎 - マロリーとアービン 搜索 40 年」講演：ヨッヘン・ヘムレブ氏と「日本山岳会ヒマラヤ登山の歴史」講演：重廣恒夫氏がありました。同時に 120 周年記念事業を紹介する展示会もあり、

- ・グレート・ヒマラヤ・トラバース
- ・ヒマラヤキャンプ
- ・エベレスト登頂 50 周年記念フォーラム
- ・日本・エクアドル外交関係樹立 100 周年記念 友好合同登山
- ・コーカサスプロジェクト
- ・全国山岳古道調査
- ・引き継がれる山岳祭
- ・人生 100 年時代の安全登山
- ・山の天気ライブ
- ・創立 120 周年記念出版『近代登山史と日本山岳会の歩み』などが展示されていました。

令和 7 年度（第 27 回）秩父宮記念山岳賞は、重廣恒夫氏「日本山岳会のヒマラヤ登山への貢献およびヒマラヤについての普及活動」沖 允人氏「インド・ヒマラヤの研究と書籍の編集・出版」が表彰されました。

記念式典と年次晩餐会には天皇陛下もご出席され、出席会員 492 人、国内外からの来賓 53 人が集い大変盛大な会でした。天皇陛下は 1987 年に入会され、晩餐会には度々出席されておられますが、今

回は 2019 年以来だということでした。

1987 年に入会した夫も、1997 年に入会した私も、晩餐会には参加したことがありませんでしたが、今回参加したのは、斎藤先生の病室に先生のお気に入りの紅茶 LOPCHU をカトマンズから取り寄せて持ってきて頂いた、本部の伊丹さんに会うためでもありました。伊丹さんとは短いお話をしただけでしたが、覚えていただき光栄でした。

ボディチェックを通して会場へ入り、式典では・物故会員への黙祷・秩父宮記念山岳賞表彰・新永年会員顕彰があり、新永年会員を代表して、岐阜支部の高木基揚さんが挨拶されました。

昨年新たに設立された東京支部の方が今回の晩餐会の進行に尽力されて、木遣りの長唄や獅子舞、日本舞踊など、日本ならではの企画で盛り上げて頂きました。全国の山名が書かれた 71 のテーブルに支部ごとに集まっていますが、支部紹介の時には赤いナプキンを振り上げて存在を示していました。

今は埼玉在住の支部会員小田佳子さんは、週末ごとに山を歩き、海外の山もご主人と二人でひょいといと登ってしまう憧れの山やさんです。この日は和服姿で現れ、「ホテルの更衣室で自分で着たの」という、「明日も主人と山へ行くので今日は急いで帰るねん」と相変わらずお茶目で、しなやかな女性でした。私は贅沢をしてここのホテルに泊まりました。フロントでは「晩餐会出席の方ですので、部屋はグレードアップしています、チェックアウトは 15 時まで OK です、どうぞごゆっくりお寛ぎください」と言われましたが、そうも出来ず朝食を食べたら早々に帰京しました。

全国に支部があり、海外の山岳会とも交流がある、大変素晴らしい山岳会であることが実感でき

ました。少々費用が嵩みますが、年次晩餐会への参加をお勧めします。



実施日：2025年12月6日(土)

参加者：幣内規男、田中昌二郎、松下征文、伊原哲士、伊藤禎洋、上野陽子、斉藤悦子、小田佳子、野村綾子

活動報告

2026年 日本山岳会京都・滋賀支部

新年会

伊原 哲士

支部新年会は南禅寺「順正」のご厚志で色々と便宜を計って頂いています。例年ならば1月の中旬を予定している支部新年会。「順正」は2026年から基本的に水曜日が定休日になるとの事。1月14日(水)を1月7日(水)に変更して、「順正」には無理をお願いして何とか支部新年会を開催する事が出来ました。

今回の参加者は29名。近年は、支部新年会、支部総会、ゆるやか登山のみの参加者が増えました。「順正」大広間会場には正月飾り、正面に掛けられた掛け軸は塔を模した双六、さりげない気配りが京都の老舗の風情を感じさせます。

定刻になり、幣内規男支部長が開会の挨拶。「支部会員の高齢化と若い世代の二極化が進む中、支部として人が集まる機会が増えることは大切な事」等を述べました。乾杯の挨拶は、支部顧問で出席者最古参の薬師義美会員。第1回『秩父宮山岳賞』受賞者で、支部顧問。著名なヒマラヤ関連文献研究者でもあり、故今西錦司さんもその見識の深さには驚嘆した方でした。しばらくの歓談の後、各自の簡単な自己紹介。藍野裕之さん、粋な着物姿で参加。有能な編集者。著書の『梅棹忠夫-限りない未知への情熱』(山と溪谷社)は梅棹忠夫評伝としては大作。安東勝浩さん安東恵子さんはご夫婦で参加ゆるやかな山々を楽しんでおられます。上田闊三郎さん、今回も南禅寺「順正」での新年会では無理をお願いしました。上野陽子さん、支部例会の最多参加数は更新中です。大久保優さんは滋賀県在住、久し振りの出席。薬師義美さんと森栄司さん、山根猛さんは師弟関係。森さんは清水寺関係。山根さんは水産学者。現在も琵琶湖で活動中。大倉寛治郎さん、大槻雅弘さんと岡田茂久さんは京都市交通局山岳部で活動。大槻さんは「一等三角点研究会」会長。大倉さんは「一等三角点研究会」事務局長。岡田さんは「東山トレイル」「全国古道調査」でも活躍。栗野雅己さん、駒井治雄さん、矢野達子さんは京都府山岳連盟仲間。栗野さんは支部委員。駒井さんは支部副支部長。杉本順之さんは『日本100名山』は全て登山。高齢なのに現在もストックなしで登下降できる山人。土井文雄さんは支部委員で支部遭難対策委員長。比良山系での安全登山活動の「レスキュー比良」代表。野村綾子さんは支部監事、「支部だより」編集委員。矢野正明さんは故岩坪五郎さんの紹介で日本山岳会に入会された方。「支部だより」時々、投稿される差し絵は秀逸。須藤邦裕さんは支部委員、支部山行部会長。プロガイドでもある。次世代育成の為に支部の例会として「登山講座」を実施中。藤綱珠代さんは支部委員。自宅は南禅寺の近く。皆、「珠(たま)ちゃん」と呼ぶ不思議なキャラクター。須藤さんの「登山講

座」の助手的存在として活躍中。前川朋子さん、最近は関西支部の例会にも顔を見かけます。次期支部委員です。松下征文さんは元支部長。「レスキュー比良」の創設者。松田雄二さんは2023年10月の入会。新年会には毎回参加。松崎宜晃さん、南禅寺正徳院住持。正徳院は茶道玉川遠州流本部が置かれる塔頭寺院。八木透さん、支部監事。高名な民俗学者。著書多数。山田和男さん、元支部委員。支部に複数居る「グループりんどろ」会員。

新年会での名残は惜しいですが、終了時間も迫り、散会しました。帰りは「順正」から貴重な「福豆」を頂きました。今回の新年会に尽力頂いた上田闊三郎さんはじめ南禅寺「順正」のスタッフの皆様、有り難う御座いました。

(会員のお便りから)

明けましておめでとう御座います。遅ればせながら、今年もどうぞよろしく願いいたします。たくさんの大きな樹木の霊気をいただいて、元気に新年を迎えることができました。京滋支部新年会は欠席しますが、またお会いできる日の近いことを祈ります。(上田典子)

お世話になっております。仕事の都合で会の山行等に参加出来ずになっています。今後参加出来るようになるようになりたいと思っております。いつもありがとうございます。(上殿弥生)

支部報送付及び新年会のご案内ありがとうございます。できれば参加希望ではあったのですが残念ながら当日所用があり参加できません。これにこりず、イベント等にお誘い頂ければ幸いです。来年も京都・滋賀支部との交流をより深めていきたいと希望しております。書籍出版のご案内については、ほんのわずかばかりの寄付をしたいと思っております。今年1年大変お世話になりありがとうございました(特に関西支部90周年で)。来年もよろしく願いいたします。(小黒節郎・関西支部事務局長)

『支部だより』に松田敏男さん連載の「山に浸って絵を描き」を楽しみに読ませてもらっています。私には松田敏男さんの作品「高山裏より夕焼けの荒川岳を仰ぐ」と題された絵(1992年作)が玄関に飾っています。夕焼けで真っ赤に輝く南アルプスの高峰荒川岳(3083m)。荒川三山とも云われる前岳・中岳・東岳の稜線もクッキリとスケッチされている。素晴らしい絵です。(宮川清明)

1月7日の新年会に参加を申し込みましたが、あいにく風邪をひいてしまい、体調が万全ではありません。新年会への参加を控えさせていただきます。(中川寛)

野暮用が重なり欠席します。(斉藤悦子)

いつもお世話になり有り難うございます。

(山崎泉)

スキーと重なりましたので欠席します。盛況をお祈りします。(森山寛一)

沢歩きや岩登りをしたい気持ちはありますが座骨神経痛の為、仕方ありません。現在の自分の足はママチャリです。御苑に行ってチャリと共に歩く日常です。皆さんに宜しく。(山村孝夫)

実施日：2026年1月7日(水)

場 所：南禅寺「順正」

出席者：藍野裕之 安東勝浩 安東恵子

伊原哲士 上田闊三郎 上野陽子 大久保優

大倉寛治郎 大槻雅弘 岡田茂久 栗野雅己

駒井治雄 杉本順之 須藤邦裕 土井文雄

野村綾子 藤綱珠代 幣内規男 前川朋子

松崎宜晃 松下征文 松田雄二 森 栄司

八木 透 薬師義美 矢野達子 矢野正明

山田和男 山根 猛 (29名)

2026年 令和8年 午年

初詣山行

松下征文

コース：長等神社楼門前 9:30→小関越え→逢坂山→上栄町 13:00

会員4名が楼門前に集まり、長等神社右奥の馬神社に今年の安全登山を祈願する。

藤尾奥町に続く道を小関越えに向かう。道路は舗装されているがかなりの登り坂で、汗が出そうになったところが小関越えの峠だった。ここから逢坂山へ冬枯れのさわやかな雑木林を登っていく。平坦な場所に出て少し進むと三等三角点の逢坂山(325m)山頂である。琵琶湖側が切り開かれているので湖南一帯の眺望が素晴らしい。遠くは少しかすんでいるが、伊吹山、霊仙山、御池岳、左手には比叡山、白い比良山系が輝いている。眼下には大津市街が広がっている。ここからの琵琶湖大津花火大会は一等席だろう。

温かく風のないこの場所で昼食とする。数組のハイカーが登ってくる。写真を撮り合い楽しい時を過ごす。自分はパイプに火をつけ香りを楽しむ。紫煙の頂にこそ憩いありと一人ほくそ笑む。

ここから大谷には行かず、京阪電車上栄町に下山して解散とした。約4時間だった。

実施日：2026年1月10日(土) 無風快晴
参加者：大久保優、大倉寛治郎、松下征文、真名子栄一



絵 矢野正明さん

第16回安全登山講習山行 (クライミング講習)

前川朋子

金毘羅山の駐車場に9時集合。朝から秋晴れの気持ちよい日だった。

9月開催の須藤さんによるクライミング講習に参加して、クライミングに魅了されてから、金毘羅山やカメロックで練習の機会を数回得ることができたので、今回は前回より登れるようになっていたかなとドキドキした気持ちで参加した。

参加者が須藤さん、三木さんとわたしの三人だったため、マルチピッチクライミングの練習もすることになった。

ウォーミングアップ後にMへ向かい、岩峰会ルートに挑戦してみた。途中で派手に手が外れ、トップロープでなかったらあの世行きだったかもしれないとひやひやした。須藤さんのビレイで引き上げるようにサポートしてもらってなんとかクリアできた。次に、金毘羅山フリーの登竜門と名高いMクラック(5.10a)に挑戦したが、まるで歯が立たない。須藤さんと三木さんにお手本を見せてもらったが、やっぱりむずかしい。まだまだ体の使い方もできていないし、いろいろな練習が必要だと思った。

MからKへのマルチピッチクライミングの練習予定だったが、D大学の学生グループが登り始めたので、わたしたちは昼休憩をとり、それから移動して北尾根へ向かった。いよいよマルチピッチクライミングの練習だ。須藤さんが2本のロープを結んでするすると登っていった。ロープが2本にもなると下から引っ張られているかのように重たいらしいが、須藤さんの足どりは軽い。すっかり須藤さんの姿が見えなくなってからしばらくして合図があり、二番目にわたしが登った。下から三木さんが指示を出してくれる。少し間をおいて三木さんが登ってきた。これでわたしが小

石でも落としたり、万が一にも滑落したら、いったいどうなるのだろうと気が気でなくて、全神経を集中して登り続けた。

北尾根からY懸尾根に合流して、Y懸尾根の頭の手前で2ピッチを終えて終了したとき、はるか眼下に大原の里を眺め、視線と同じくらいの高さに広がる山並みを眺めながら、わたしの人生において、こんな高さのところまで吹きさらしの岩にしがみつくとようにしてよじ登る日が来るなんて想像もしていなかった、人生って不思議だな、出会いってありがたいなと、なんとも表現できない感動があふれて胸がいっぱいになった。

ロープのまとめ方も教わったが、これも練習しないと忘れてしまうだろう。でも、こんなに長いロープなんてうちにはないから、とにかくどんどん練習に参加するのみだ。

須藤さんと三木さんにじっくり丁寧に根気強くご指導いただいた。

ほんとうにありがとうございました。

実施日：2025年11月8日(土)

場 所：金毘羅山

参加者：須藤邦裕(L)、三木千津子、前川朋子

第17回安全登山講習山行 (クライミング講習)

石附憲人

2025年12月13日、亀岡市内のカメロックスにて開催されたクライミング会に参加した。本会は、経験者から初心者までが集まり、技術交流と安全意識の向上を目的として実施されたものである。私はクライミングシューズを購入したばかりの初心者として参加した。当日は、ベテランの先輩方から随所で丁寧なアドバイスをいただきながら、主にボルダリングを中心に登攀を行った。特に印象に残ったのは、ムーブ中だけでなく停止

状態における腕の位置や体の使い方についての指導である。これまで無意識に腕へ力を入れてしまっていたが、安定した姿勢を保つための腕の使い方を意識することで、無駄な力を使わずに登ることができることを学んだ。また、足の運び方や足の入れ替え方法についても具体的な助言を受けた。ホールドに対して正確に足を置くこと、次の動きを見据えて足を入れ替えることで、動作がスムーズになることを実践を通じて理解することができた。これらは独学では気付きにくい点であり、経験者から直接教わることの重要性を強く感じた。さらに、今回初めてリードクライミングにも挑戦させていただいた。ボルダリングとは異なり、高さに対する恐怖心やロープを意識した動きが求められるため、大きな緊張感があった。一方で、次のクリップ位置やルート全体を考えながら登る必要があり、より頭を使うクライミングであることを実感した。短時間ではあったが、非常に貴重な経験となった。今回のクライミング会を通じて、技術面だけでなく、安全意識やクライミングに対する考え方を学ぶことができた。今後は、個人でのボルダリング練習を継続するとともに、誰かとクライミングに行く機会があれば積極的に参加し、助言を受けながら技術向上を図りたい。また、今回得た身体の使い方や判断力を、今後の登山活動にも活かしていきたいと考えている。

実施日：2025年12月13日(土) 9時~12時

場 所：カメロックス

参加者：須藤邦裕(L)、村上 正、松崎宜晃、三木千津子、池ノ内直樹、前川朋子、田中佳洋、藤網珠代、石附憲人

第 18 回安全登山講習山行

八ヶ峰

～雪山のルートファインディング～

池ノ内直樹

美山の茅葺屋根の「日本の景色」を横目に、知見登山口に到着した。8時30分。今年に入り雪は1月2日と11日に降ったのだった。

この11日の雪が残ってはいたが、ラッセルする程は無かった。9時出発。晴天の日差しあり、温度差による霧で幻想的な風景だった。雪のない夏道を登り始める。すると、山道が2本あり古い山道は深く掘られている。平坦な方の道を進む。岩田さんを先頭にこれまでの講習で教えて頂いたペースでリードしてくれていた。9時45分、685mのピークを夏道でなく、巻いて壺足で雪道を自由に登る。雪の表面が朝だから凍って足に負荷がかかった。10時25分685mピークで休憩。

リーダーから、「雪に乗って雪が大きく落ちる雪は凄く疲れる。こんな雪は疲れるから止めるという判断もある」と教わった。10時50分夏道合流。5分程登り、石碑があり鯖街道でもあった。11時10分地藏があり、通り過ぎ下つての登り返し。11時25分鉄塔がありユズリハの木があった。正月の餅にゆずり葉を一緒に運も譲る次世代にという風習があると教えて頂いた。11時40分頂上。北に青葉山、東に百里ヶ岳。12時15分下山開始。分岐まで尾根を通るルートファインディング。先頭の岩田さんとリーダーの須藤さんがトランシーバを持ち、トランシーバの実践。12時35分ワカン装着組と壺足組でのワカンとトランシーバの体験をした。12時55分石碑まで再びルートファインディング。自由な雪道を地形図で整地し確認しながら、午後雪質が変わったことに気付く。太陽で表面が溶けて柔らかくなり歩きやすくなっていた。読図の面白さと状況把握の重要性、八ヶ峰のルートファインディングの面白さに、春、是非再びルートファインディングして登ろうと

思った。13時15分尾根を下りてきて石碑に着き、休憩し14時10分下山。温度差の身体の疲れが心地良く、空は曇ってきて、「計算通りや」と、リーダー。ありがとうございました。

実施日：2026年1月17日(土)

参加者：須藤邦裕(L)、藍野裕之、池ノ内直樹
岩田萌恵、藤綱珠代、前川朋子、三木千津子



鉄塔からの広がる眺望



青春の山々に思いを馳せる

第19回安全登山講習山行 (クライミング講習)

前川朋子

前日からの雪予報のため、金毘羅山からカメロックスに場所が変更となり、9時カメロックス集合、13時前までの講習会となりました。参加者はクライミングのベテランばかりなので、クライミングの上手な体の使い方をじっくり観察することを一番の目標として参加しました。じつは、二日前にもカメロックスで練習して自分の課題が見えていたので、それをクリアするのも大きな目標でした。

須藤さんに教わったのは、まず体をほぐすためにやさしいルートをこなしてから、本命にアタックすること。二日前に本命を決めていたので、まず一番やさしいのからと思っていましたが、土曜日のためか、すでに3人の男性がガツガツ挑戦しており、割って入るにはがんばらねばという負けず嫌い根性が出てきて、一番やさしいのを飛ばして次のグレードから始めました。

それでも、二日前にみっちり須藤さんから指導していただいたおかげで、課題をこなしていけました。今日はいけるかもと調子に乗ったのが間違いで、自分の腕の疲れに気づかず、さらにむずかしいグレードに挑戦し、ゴールの手前で手を滑らせ派手に落ちました。マットが分厚くて本当に助かりました。こらあかんわと反省し、オートブレイに移り、二日前の課題に挑戦しクリアできました。また調子に乗って次のグレードに挑戦したら見事に落ちました。でも、先輩方はするするこなしていきます。その所作の無駄なく美しいのに感動しました。自分の体の使い方、柔軟性、筋力、判断力の不足をひしひしと感じました。練習あるのみです。

須藤さんが、クライミングは全身運動だから体がほぐれるのだという話をされましたが、クライミングのあとは体中の血流がよくなり活性化す

る気がします。さらに、努力の成果がわかりやすく、しかも短時間でかなりの運動量がありますから、すごく忙しい働き盛りの人々にもうってつけのスポーツだと思います。

これからもどんどん挑戦していきたいので、機会があれば積極的に参加するつもりです。

今日も丁寧にご指導いただきありがとうございました。

実施日：2026年1月31日(土)

場 所：カメロックス

参加者：須藤邦裕(L)、三木千津子、松下征悟、前川朋子

岳逍遥

比良御殿山

松下征文

8:30 坊村駐車場に集合して明王院より杉人工林の急斜面をジクザク登る。2日前からの新雪が美しく気持ちよい。3名はアイゼンをつけるが自分は不要だ、気持ちよく踏跡をたどる。天気も回復傾向なので登山者が多い。初心者やガイド山行グループも登ってくる。比良の人気ルートだ。

樹林帯は風もなくてよいのだが曇り日で展望はきかない。尾根に出ると北風が吹きこんでくる。手袋を冬用に変えてストックを握る。自分の体力に不安を感じていたが杞憂だった。しかし気をつけねばと心する。

真名子リーダーが夏冬道分岐で昼食にしようとのことで11時少し過ぎでの昼食タイムとなる。北風が猛烈に吹雪くが冬山を楽しむ余裕。いつものカップヌードルを食べる。多くのパーティや単独行者が下山してくる。吹雪と寒さで下山する者、早朝より登って武奈ヶ岳を往復した若者も下りてくる。今日はここから下山することとなった。登ってきたルートを下降する。杉の人工林

帯になるとこの斜面の傾斜がよくわかる。飽きもせず登るものと自嘲する。

14時位過ぎに坊村着、喫茶「茶坊」に入る。いつもはコーヒーであるが今回はぜんざいにした。冷えた体に温かい甘さが染み渡る。

実施日：2026年1月31日(土) 曇り

参加者：真名子栄一(L)、松下征文、大久保優、上野陽子

登山中でも街中でも もしもの時のために知っておきたい

ファーストエイド講習

石附憲人

今回、登山ファーストエイド講習会に参加した。これまでも山行時には必ず救急キットを携行していたものの、その内容が本当に十分なのか自信が持てず、また緊急時にどの順序で対応すべきか具体的な知識が曖昧であった。いざ負傷者が出た場合に適切に処置できるか不安を抱えていたため、今回の受講を通じて知識と技術を明確にしたいと思い参加した。

講習は午前と午後に分かれて実施された。午前中は山本講師(消防士)から、山で救助要請を行う際の具体的な連絡方法を学んだ。発生場所の説明、負傷者の状態、周囲の危険、天候など、救助隊が正確に状況を判断するために必要な情報を落ち着いて整理して伝える重要性を理解した。また、西田講師(看護師)による三角巾の実技では、腕の固定、圧迫による止血、安定化など、三角巾が幅広い場面に応用できることを実際に体験しながら学んだ。

午後の講習では、西田講師より胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの使用など、救命救急の基礎を再確認した。胸骨圧迫の手の位置や深さ、テンポを繰り返し練習することで、頭では理解していても実際の場面では迷いやすい動作を体で覚えることができた。

また、新聞紙と牛乳パックを用いた胸骨圧迫練習グッズの紹介もあり、自宅で手軽に練習できる優れた方法だと感じた。続いて、山本講師による登山ザックを使った搬送方法の実技が行われ、限られた装備の中でも工夫すれば安全に負傷者を移動させられることを学んだ。

特に印象的だったのは、参加者が携行している救急キットの多様さである。自分はガーゼやバンドエイド、薬程度しか持っていなかったが、参加者からはゴム手袋、カイロ、スズメバチ対策用品など、具体的なリスクを見据えた装備が多く挙がり、自身の不十分さに気付かされた。想定する場面により、必要な装備が変わることを実感した。

レスキューセットは「使わないことが一番良い」装備ではあるが、今回の講習はその内容を見直す大きなきっかけとなった。今後は自分の登山スタイルや活動環境に合わせて、より実用的で状況に対応できる救急キットへ更新していきたい。また、意識・呼吸・出血の初期判断の重要性を再確認し、緊急時には冷静な判断ができるよう、日頃から知識と手順の整理、そして実技の継続的な練習を意識していきたい。

実施日：2025年11月22日(土)10時～5時30分

場 所：南禅寺塔頭寺院 正的院

講 師：山本(消防士)、西田(看護師)

参加者：須藤邦裕(L)、松下征文、土井文雄、駒井治雄、栗野雅己、矢野達子、前川朋子、松崎宜晃、野村綾子、村上 正、藍野裕之、石附憲人、藤綱珠代、他2名

山書紹介

山書会 松下征文

『屏風岩攀記』

石岡繁雄著

昭和49年10月碩学書房発行

この本は自分が屏風岩を何度か登りに行ってからのちに知った本である。自分達は東京緑山岳会や鵬翔山岳会等の記録を見て登りに行こうという気になった。涸沢に入るたびに聳え立つ崖壁はいつも気になっていた。それまでは単に大きな崖ぶちの岩場ではという消極的な意見が全岳連（現在のジムスカ）内部にあったようだ。

三重県の岩稜会は戦前から取り組んでいた。それは石岡の書いているように、いまこそ登山界懸案の場所において血みどろの闘争が開始されたのだ。と書いている。

今西錦司が序に書いている一部を引用しよう。

「穂高の中心涸沢の表玄関にそそり立って。山麓を歩きかうアルピニストたちを睥睨する屏風の大岩壁は。戦前の登山界において、登攀不可能の象徴でもあった。」彼らは戦後の混乱期にそこを初登攀したのだ。

若いクライマー諸君もぜひ読んでほしい。

井上靖の山岳小説「氷壁」を知っている若者は少なくなったが、石岡繁雄さんの弟が前穂高岳東壁で滑落して、ナイロンザイルが切断して死亡するという遭難が起こった。この遭難を小説にした。切れないという触れ込みで登場したナイロンザイルが切れたということで大きな社会問題となり今もそのことが語られている。

『凧の人』

柏澄子著

2025年12月山と溪谷社発行

凧の人、山野井妙子さんの半生を僕のお気に入りのライター柏澄子さんが何度も取材して妙子さんを書ききっている。妙子さんの旧姓は長尾である。滋賀県東近江市出身の世界的な女性アルパインクライマーである。ご主人は山野井泰史で生涯ピオレドールを受賞している世界的アルパインクライマーである。

お二人のギャチュンカン登頂後の壮絶な下山にはよく生きて帰れたなど驚くのみ。

とにかく国内でのクライミングも「すごい」の一言です。「ただあるがまま、自分を生きている」という妙子さん。

今は伊豆で畑仕事にいそしみ泰史さんとの幸せな生活が柏さんの文章から伝わってきます。

特に女性の方にお勧めします。



ベニマシコ（♂冬羽）

関西では秋から春先にかけて見られる冬鳥
草原や林縁の灌木林などで、草木の芽や種子、昆虫類などを採食

「山に浸って絵を描き版画制作へ」その4 (最終回)

現場での絵から版画制作へ

松田敏男

社会人になって夏に南アルプスの 3000 メートル峰を縦走の形で 4 度、その後 冬の北八ヶ岳や夏の北アルプスに残雪の南アルプス、そしてヒマラヤトレッキングや飯豊連峰などで合わせて 10 年間に 300 枚ほどの絵を描いた。現場で 30~40 分ほどで描き切った後 自宅ではいっさい手を加えない方法をずっと続けている。ザックの背中に入る大きさにするため半分に折った色画用紙を糊で貼り合わせて見開いて描けるようにし、4 mm 厚のベニヤ板 2 枚を画板と表紙を兼ね備えたスケッチブックを作った(写真)。



その頃はカメラは持って行かなかった。自分で見た山の世界をカメラで再現すると全く異質の雰囲気になり、現場の雰囲気が純粋に印象として残らないという危惧を持ったからだ。

山に通い始めて 10 年間ほどは日本アルプスなどの有名山岳に限られていたので、もっと内容を深めたい思いで小さな山岳会に入り、テント山行のノウハウを身に付け、藪漕ぎや山名のない山などに赤布をつけながらの探検的山行、スキーによる登山など、山の会に入った事により山行の世界がぐんと広がった。近隣の山、例えば武奈ヶ岳に登ったのは南アルプスの 3000m 峰を全部登った後だ。単独での山行では絵を描くことは続けたが、山の会の例会山行は積極的に記念撮影をしたり、花や樹木の姿をカメラに収めたりして、仲間との山行の喜びを身に付けて幅広く楽しむよう

に発展した。その頃は山の絵を公の場で展示するという考えはなかった。

当会の須藤さんは その小さな山の会の中心メンバーで、リフトに乗る時に手間取って何人分かの空席をつくってしまう程スキー初心者の私を、後日 白馬大雪渓や針ノ木雪渓を滑降できるところまで育てて頂いた。

年間 20 回 30 日程度だった山行が 30 年ほど後には 50 回 90 日ほどに増えた。1 年間は 52 週だから毎週山行をしていた勘定になる。その間に積雪期での単独テント泊山行や、山頂でのテント泊などには、とてつもないほどの喜びを感じた。

丸 4 日間(4 日分が持参食料の重量限界 雪で水を得る積雪期に限る)人には出会わなくて鹿やカモシカには 30 頭ほど出会ったり、朝テントの周りに兎などの足跡が縦横にあるのを見つけたり、テント内は冷凍庫内にいるような寒さで体調変化などに細心の注意を払って緊張しながらも幸せな気分だったこととか、テントを張り始めた時カモシカがその様子をじっと見ていたこともあり、「こんにちは」とか「今夜はここで過ごすからよろしくね」などと話しかけながら、「じゃあテントに入るね」と言ったら尻尾を振って応えてくれたことなども、体力の衰えで出来なくなった今 懐かしく思い出される。

テントを撤収する時は一夜を守ってくれた大地に感謝の気持ちで御礼をしている。幸せを感じるひと時だ。道に落ちているゴミは拾うのが習慣化しているが、人があまり歩いてない道の方がゴミは多いように思う。南アルプスの伝付峠から策ヶ岳の間は大きなゴミが散乱していた、4 泊分の重い荷物での回収は大変だった。でも気持ちは晴れやかになった。新ハイキング関西誌に掲載した紀行文中に、「タオルワスレやアメノツツミなどのミヤマコゴミを採取しながら」と書いたのを読んだ山菜に関心の深い方が、「どんな山菜ですか」と尋ねられて窮したこともあった。

それらと並行して、日本山岳会入会、山の絵や版画の個展開催、「彩画山影」「光る山山」の画集

を刊行した。「光る山山」の序文を斎藤惇生先生から頂いた喜びは終生忘れられない。“友人の遭難の哀悼文ばかり書いてきたのでとても嬉しい”と言ってくれました。2022年に上梓した「山に抱かれ染まる刻(とき)」と共に画集2冊を日本山岳会本部と京都滋賀支部に寄贈した。

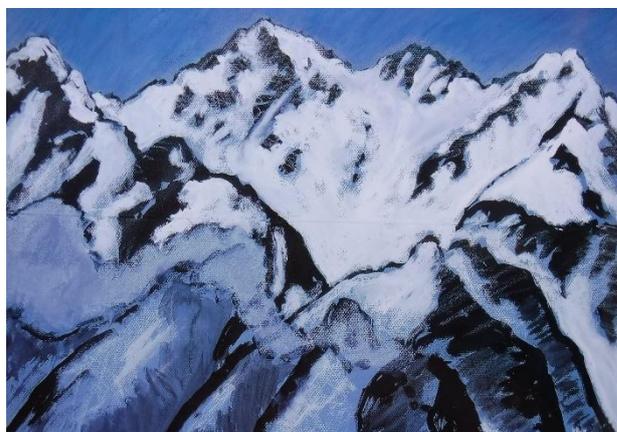
ここより表題の話に戻します。現場で描いた絵(蝶ヶ岳より穂高連峰を望む)とそれを基にして制作したシルクスクリーン作品の写真を並べて、制作の過程の説明をいたします。

初めの頃は白い紙に描いていましたが雪や雲の白色を手早く表現するには色の紙が良いと思って色キャンソン紙を使っています。この紙は網目状に凸凹があるので表情の変化がつけやすいです。描画具は墨と水溶性クレヨン及び水彩絵の具の白色を使っています。墨汁は水彩を重ねると滲むので磨っておきます。墨を使うと大胆な筆致が得られるので山岳風景には最適です。下書きもせずにどうして描けるの?という問いがあるかと思いますが、息せき切って登った先に突然広がる感動の一瞬をすぐさま描くのがオススメです。正確に描こうとか上手く描かなくてはこの邪念が忍び寄る前にぶっつけで描くのが良いのです。水溶性クレヨンは少し値が張る商品ですが、青色・灰色・茶色などを主体に単色で買うのがオススメです。刻々と変わる山の表情を捉えたいです。赤色系～黄色系・紫色などはあまり使わないので少しだけにして40色ほど揃えるのが良いです。かなり重くなるのでもったいない気持ちに目をつぶって短く折って持って行きます。水溶性クレヨンの白色では雪や雲の輝く雰囲気が出ないので水彩で補っています。写真は山に持って行く画材のすべてです。水は少しで良いので醤油などを入れるスポイト状の物を使います。

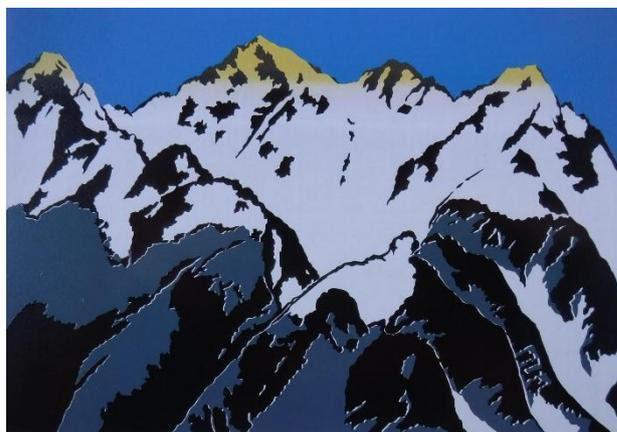


シルクスクリーンは版画技法のひとつですが、木版画や銅版画などのように下絵が左右逆転することなく版画に移行出来るので、実際描いた絵の印象が薄れずに版画の特色である偶然の楽しみも併せ持つ技法です。多色刷りの面白さは投手が三振を取る配球に似ています。例えば7色刷り作品としますと、7球目で三振を取るという色彩計画です。明るい色暗い色(明度差が大きい)、隣接するとぼやけた色合いに見える色同士(彩度が似ている)、グラデーション(例 赤～黄色、明るい青～暗い青色)などからなる7種類の版を刷る順序の計画を立てます。決め球(色)で鮮やかに空振り三振(素晴らしい仕上がり)を取る前に見せ球(色)に取ってボール球を(主張色を際立たせる目立たない色)投げたり(刷ったり)といった組み立てが版画の醍醐味です。

山で絵を描くと、“眺める”から“観察する”に深化して、未知のルート探索に似た行動につながり楽しさ倍増ですので、皆さんチャレンジなさってはいかがでしょうか。



現場で描いた(蝶ヶ岳より穂高連峰を望む)



制作したシルクスクリーン作品

図 書 紹 介

ある北アルプスの哀史

『喜作新道』

著 者 山本茂実
発行所 株式会社山と溪谷社
発行日 2024/6/5 初版
文庫本 頁数 483 ページ
定 価 1,320 円

竹下節子

今回ご紹介したい本は『喜作新道』。

著者は山本茂実、『あゝ野麦峠』で日本文学史に名を残した長野県の作家である。

北アルプス近代登山の黎明期に生きた小林喜作の人生をいつものスタイルで書いている。隠された真実や虚偽を執念深く追いかけて取材し綴っている。

『喜作新道』は、北アルプスの縦走路「表銀座」を拓いた猟師、「小林喜作」の話である。本文は十三話で構成されている。ひとつの話が、4つから6つのセクションにまとめてあり読みやすい。読者には喜作の人生を追体験させてくれるだろう。

喜作は南安曇郡西穂高村牧(今は安曇野市穂高)の人で明治から大正にかけて猟師として生きた。槍ヶ岳周辺を猟場としてクマやカモシカ、ウサギなどを捕って暮らしていた。獣道、ハイマツが延々と覆いつくす尾根、足の踏み場もない一歩から道を切り拓くことからはじめた。途中で獲物があれば村田銃で撃った。行き帰りで射止めた獲物は解体して背負ってもち帰る。干し肉用に木に吊して帰るときもある。野宿もした。寝床にする穴で何かに触ったとたん、穴からクマが出て行ったとか(クマの巣)のエピソードには度肝をぬく。また猟師小屋(槍ヶ岳直下)も建てた。作業中に資材が足りないと聞けばその足で中房まで降りて 60 kg のトタンを次の朝 8 時頃には担ぎあげていたという。

当時の喜作たちの村は貧しく特に猟師が一番貧しかった。しかし喜作だけは違っていた。並はずれた体力と凄腕の鉄砲打ちで大量の獲物を捕



った。商売も上手で肉や毛皮にして売った。ガイドでも高賃金で雇われた。村が貧しいなか、喜作の懐だけは温かかった。しかし、ある日、雪崩で死んでしまい謎を残した。

本の帯には「数奇な人生」、見出しには「ある北アルプスの哀史」と掲げられている。その真髄は悲喜こもごも、このあと本文で明らかにされていく。以降は本文をお読みください。

昔の槍ヶ岳への道は有明(現在大糸線)から穂高町まで馬車でいき、あとは中房温泉まで徒歩 15km、そして一泊。次の日は燕小屋か、大天井小屋で一泊、次は東天上を縦走して常念小屋に一泊、次の日は一ノ俣から槍沢(槍ヶ岳直下)に一旦下って、登るルートだった。最低 3 日から 4 日を要するのが常識であったという。今では穂高駅からバス、中房温泉から表銀座『喜作新道』を歩いて、2 日で槍ヶ岳についてしまう。私たちは小林喜作



のお陰で山を楽しめている。

私はこの本を読んで初めて喜作の行動範囲を知り、人力で拓いた道に、感謝の念でいっぱいになった。

行 事 案 内

◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。

◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。

◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

日本山岳会京都・滋賀支部 2026 年度
(令和 8 年度)
第 41 回総会の案内

日時：2026 年 4 月 4 日(土) 午後 2 時～

場所：鴨沂会館 新館ホール(201 号)

京都市上京区荒神口寺町東入ル荒神町

電話：075-231-1001

(市バス 3,4,17,205 系統「荒神口」下車西へ徒歩 1 分。京阪「丸太町」下車西へ徒歩約 10 分。)

第 41 回総会(午後 2 時～午後 2 時 40 分)

2025 年度事業報告、決算報告。

2026 年度事業計画(案)、予算(案)。

2026 年度支部委員(案)。「今西錦司賞」選考経過。支部創立 40 周年記念事業。その他。

記念懇話会(午後 2 時 50 分～午後 4 時 15 分)

「薬師義美先生に聞く・

DVD グルジャ・ヒマール上映(31 分)」

聞き手：須藤邦裕委員

(略歴) 薬師義美(やくしよしみ)氏。1936 年、富山県生まれ。日本山岳会京都・滋賀支部顧問。

ヒマラヤ関連の文献研究者として知られる。

『ヒマラヤ文献目録』は海外の登山家からも高い評価を受ける。著書多数。山岳に対する研究や活動で顕著な業績を挙げた団体や個人に対して授与される賞である「秩父宮山岳賞」第一回受賞者。

泊山岳会に所属の頃の 1961 年 8 月黒部祖父谷初遡行など北アルプスの沢に精通。1965 年～1966 年にネパール・ヒマラヤ中部から東部を踏査。

1969 年富山ヒマラヤ登山隊長としてネパール・ヒマラヤのグルジャ・ヒマール(7193m)の初登頂を成功させる。

懇親会(午後 4 時 30 分～午後 6 時)

ごはん Cafe「綴(つづれ)」荒神口前店

懇親会費 4000 円

京都市上京区荒神口通河原町西入上生洲町 211-31(鴨沂会館南側正面) 電話 075-252-3529

※総会出欠ハガキの投函(85 円切手貼付)およびメール等の速やかな連絡にご協力下さい。懇親会の人数などの予約の関係もありよろしくご協力をお願い申し上げます。

(問い合わせ等)

日本山岳会京都・滋賀支部 事務局 伊原哲士
〒639-1054 奈良県大和郡山市新町 534-5

電話 0743-54-6685

E-mail iharajac@gmail.com

iharajac@hkg.odn.ne.jp

北山探訪

山行計画(4 月～9 月)

◎北山探訪①

半国高山 △689.8

実施日：2026 年 4 月 19 日(日)

行程：杉阪口→供御飯峠→半国高山→岩谷峠→小野郷

地形図 1/25000 図 「周山」

山行の目安：体力3 技術2 藪漕ぎあるかも
担当：八木 透 yagi-to@bukkyo-u.ac.jp
申込：4月13日(月)までに必要事項を記入の上
メールにて担当者へ

◎北山探訪②

三国岳 △959.1

実施日：2026年5月16日(土)
行程：久多→登山口→一の岩屋→三国岳→往路
を戻る
地形図 1/25000 図 「久多」

山行の目安：体力3 技術3 藪漕ぎあるかも
担当：八木 透 yagi-to@bukkyo-u.ac.jp
申込：5月4日(月)までに必要事項を記入の上
メールにて担当者へ

◎北山探訪③

大段谷山 △795.1

実施日：2026年6月20日(土)
行程：佐々里峠→大段谷山→往路を戻る
地形図 1/25000 図 「中」
山行の目安：体力2 技術2 藪漕ぎあるかも
担当：八木 透 yagi-to@bukkyo-u.ac.jp
申込：6月15日(月)までに必要事項を記入の上
メールにて担当者へ

◎北山探訪④

奥八丁山 △752.0

実施日：2026年9月12日(土)
行程：佐々里→登山口→奥八丁山→往路を戻る
地形図 1/25000 図 「中」
山行の目安：体力2 技術3 藪漕ぎあるかも
担当：八木 透 yagi-to@bukkyo-u.ac.jp
申込：8月31日(月)までに必要事項を記入の上
メールにて担当者へ

北山探訪各回の集合場所・時間は担当者に問い合
わせください

歴史と文化の山旅
「青春18切符で松江と鳥取の伝承を訪ねる」

日本山岳会会員も高齢になり「青春18切符」
という格安切符を使つての列車旅です。
日時：2026年3月20日(金)～22日(日)
集合：京都駅31番ホーム 午前7時25分
行程：3月20日(金)京都駅31番ホーム(7:34発・
JR山陰本線園部行き普通)-園部駅(8:22発・JR
山陰本線福知山行き普通)-福知山駅(10:12発・
JR山陰本線城崎温泉行き普通)-城崎温泉駅
(11:56発・JR山陰本線鳥取行き普通)-鳥取駅
(14:50発・JR山陰本線米子行き普通)-米子駅
(17:41発・JR山陰本線出雲市行き普通)-松江駅
(18:16着・泊まり)

3月21日(土) 国宝松江城-小泉八雲記念館-小
泉八雲記念館-松江駅(13:40発・JR山陰本線米子
行き普通)-米子駅(14:59発・JR山陰本線鳥取行
き普通)-鳥取駅(17:19着・泊まり)

3月22日(日)鳥取-鳥取城-鳥取駅(11:05発・JR
因美線上郡行き普通)-上郡駅(14:06発・JR山
陽本線相生行き普通)-相生駅(14:20発・JR山陽
本線姫路行き普通)-姫路駅(14:41発・JR山陽
本線野洲行き新快速)-京都駅(16:14着)

山行の目安：体力1 技術1
歩行時間：行動日は約2時間～約4時間
軽ハイキング装備 雨具 簡単な宿泊備品
費用概算 25200円(青春18切符3日券10000円・
ビジネスホテル2泊14000円・智頭急行1320円・
食事代は別途)

※申し込み締め切り2026年3月18日(水)
詳細は参加者に連絡します。

(申し込み・問い合わせ)

〒639-1054 奈良県大和郡山市新町534-5
電話 0743-54-6685 E-mail iharajac@outlook.jp
伊原 哲士

歴史と文化の山旅

「大和郡山の豊臣秀長遺構散策と花見会」

NHK 大河ドラマ『豊臣兄弟』のモデルとなった奈良県大和郡山市の豊臣秀長の遺構を桜の季節に訪ねます。

日時：2026年4月6日(月) 午前10時

集合：近鉄郡山駅(東側改札前・交番の在る側)

行程：大和郡山駅(10:00発)-大納言塚-源九郎稲荷-外堀緑地公園-郡山城跡(昼食)-逆さ地藏-近鉄郡山駅解散(16:00解散)

交通〈京都から〉近鉄京都駅(9:00発近鉄京都線急行橿原神宮前行き) - (9:51着) 近鉄郡山駅

山行の日安：体力1 技術1 歩行時間約4時間
軽ハイキング装備 弁当 水筒 雨具

※申し込み締め切り2026年3月31日(火)

詳細は参加者に連絡します。

(申し込み・問い合わせ)

〒639-1054 奈良県大和郡山市新町534-5

電話 0743-54-6685 E-mail iharajac@outlook.jp

伊原 哲士

歴史と文化の山旅

「再訪。奈良県山添村・神野山(こうのやま)の星空を訪ねる」

星空観察は阿智村(長野県)が有名ですが、実は関西にも、素晴らしい天体観測の隠れた聖地があります。神野山です。昼間はハイキングで賑わう神野山も、夜は星空という別世界が広がります。昨年、10月4日、12月20日に計画するも曇天になり中止。再々挑戦です。

日時：2026年5月15日(金)

集合：大和西大寺駅南口下(南側改札を出て10m) 午後5時

行程：大和西大寺駅(17:00発)-西名阪道-(18:30着) フォレストパーク神野山(森林科学館駐車場)-星座観察-フォレストパーク神野山(20:00発)-

(21:00着) 大和西大寺駅

交通：〈大阪から〉近鉄大阪難波駅(16:22発近鉄奈良線急行奈良行き) - (16:55着) 大和西大寺駅〈京都から〉近鉄京都駅(16:15発近鉄京都線急行橿原神宮前行き) - (16:58着) 大和西大寺駅
山行の日安：体力1 技術1 歩行時間約15分
軽ハイキング装備+星座観測グッズ(星座表・双眼鏡・懐中電灯等) 水筒 軽食

※申し込み締め切り2026年5月11日(月)。神野山は交通が不便なのと夜間の狭い山道です。大和西大寺駅から普通自動車の走行になり、定員4名で締め切ります。1300cc以下の普通車で来られる方は問題ありません。星座観察は天気によって左右されます。詳細は参加者に連絡します。

(申し込み・問い合わせ)

〒639-1054 奈良県大和郡山市新町534-5

電話 0743-54-6685 E-mail iharajac@outlook.jp

伊原 哲士

歴史と文化の山旅

「奈良県安堵町『案山子公園』と斑鳩の古代遺跡を訪ねる」

JR 法隆寺駅から徒歩30分くらいの場所の安堵町に「案山子公園」があります。そこには12mにもなる巨大聖徳太子像が立ちます。公園内にはユニークな案山子がたくさん設置されています。周辺の古代の謎解きと併せて歩きます。

日時：2026年6月6日(土)

集合：JR 法隆寺駅南口改札午前10時

行程：JR 法隆寺駅(10:00発)-安堵町歴史民俗資料館-案山子公園-斑鳩文化財センター-藤ノ木古墳-矢田丘陵-法隆寺駅(16:00・解散)

交通：〈京都から〉京都駅(8:37発 JR 奈良線普通奈良行き) -奈良駅(9:45発 JR 大和路線大和路快速天王寺行き) - (9:56着) 法隆寺駅

〈大阪から〉大阪駅(9:12発関西本線大和路快速奈良行き) - (9:52着) 法隆寺駅

山行の目安：体力2 技術1 歩行時間約6時間
軽ハイキング装備 水筒 弁当
※申し込み締め切り2026年5月31日(日)。詳細は
参加者に連絡します。

(申し込み・問い合わせ)
〒639-1054 奈良県大和郡山市新町534-5
電話 0743-54-6685 E-mail iharajac@outlook.jp
伊原 哲士

近江城山逍遙シリーズ

マイカーを使わずに鉄道駅から歩きます

第1回
4月中旬
JR 北陸線河毛駅集合—小谷城 495m—JR 北陸線
虎姫駅—虎御前山 224m

第2回
5月中旬
JR 草津線寺庄駅集合—隠岐城 207m—佐治城 250
m

第3回
6月中旬
J R東海道本線柏原駅集合—長比城 391m

日程調整中のため、日時等詳細は参加希望者に連絡いたします。担当者にお問い合わせください。
担当：松下征文
04etmm@gmail.com
またはグループ LINE

2026年度

安全登山講習山行

4月5日(日) クライミング 金毘羅
5月10日(日) 地図読み 皆子山
6月20日(土) ビレイ講習 金毘羅(又は人工壁)
7月11日(土) 地図読み 掃雲峰(るり溪)
9月6日(日) クライミング 金毘羅
10月3日(土) ハイキング 深山
10月18日(日) クライミング
11月15日(日) 地図読み△680.9 古屋の東
12月5日(土) クライミング 金毘羅

集合場所：参加者に連絡いたします。

※ いずれも天候状況によって室内クライミング
への変更あり。

担当・リーダー：須藤邦裕

参加申し込み：藤綱珠代 090-4038-1001

メール：tam.4190@gmail.com

山岳展望と秘湯の旅

剣山(1955m) 日本百名山

四国の名山ですが、京都からは交通機関での利用が大変な山です。みんなで楽しくチャレンジしましょう。

実施日：2026年5月7日(木)～8日(金)

集合場所・時間：J R京都駅八条口

5月7日(木) 午後9時

行程：京都駅⇒名神高速・淡路縦貫⇒見ノ越駐車場(仮眠)⇒(リフト)西島駅→大劔神社→剣山頂上→次郎笈→西島駅→見ノ越⇒剣山木綿麻温泉⇒美馬 IC⇒淡路縦貫・名神高速⇒JR 京都駅

山行目安：体力3 技術3 車を利用

申込・問い合わせ：4月30日(木)

担当者 幣内規男まで

〒610-0121 城陽市寺田今堀 20-6
電話：090-8989-5888
メール：hechan0165@eco.ocn.ne.jp

今西錦司レリーフの集い

実施日：5月31日(日)

集 合：植物園北入口 9:00

北山直谷に有る今西錦司レリーフを訪ね清掃、修繕作業、整備を行います。昼食を北山山荘にて今昔を語り合います。今西錦司を知らない人も多くの会員の参加をお願いします。

担当：駒井治雄

電話番号：090-2594-1403

メール：torino51@kce.biglobe.ne.jp

春のスケッチ山行

「比良のシャクナゲを描く」

イン谷口～釈迦岳

「愛宕山のクリンソウを描く」

清滝～梨の木谷林道

*5月初旬～中旬を予定しております。

*花の開花状況を見て参加者に日程をお知らせいたします。

*リーダー 田中佳洋会員

*参加希望者は藤綱珠代委員

090-4038-1001

tam.4190@gmail.com まで。

第26回 5支部（富山、石川、福井、岐阜、京都・滋賀） 合同懇親山行開催のご案内

若葉や新緑の爽やかな風が薫る5月に富山支部の担当で5支部懇親山行が開催されます。砺波嵐山と呼ばれる三条山、采女の舞い踊る八乙女山、散居の里砺波平野を望み、鮎の棲む清き流れの庄川の元に集います。多くの支部会員の参加をお待ちしています。

期 日：2026年5月17日(日)～5月18日(月)

会 場：庄川温泉・となみ野庄川荘『一萬亭』

電 話：0763-82-5111

〒932-0302 富山県砺波市庄川町庄 4981-1

5月17日(日)

受 付：15:00～

講演会：16:00～17:00

講 師：楠 規夫氏〈道宗道の会〉

演 題：「道宗道を歩く」

夕食懇親会：18:00～20:00

5月18日(月)

懇親山行：①八乙女山-風神堂-鶏塚コース

②三条山-水記念公園散策コース

③観光コース(水記念公園・彫刻の町・井波別院瑞泉寺)

会 費：¥20000

1泊2食・懇親会費・昼弁当含む(お茶は各自)

※当日集めます。

申込期限：2026年3月30日(月)

出来るだけ早く申し込み下さい。京都・滋賀支部の参加者の車の乗り合わせで現地まで行きます。

申込留意点：

①氏名②会員番号③年齢④性別⑤郵便番号⑥住所⑦携帯電話番号⑧山行・観光コース番号⑨緊急連絡先を記載してお申し込み下さい。

※車提供可能な方はお申し出下さい。支部で調整します。ガソリン代、高速代などの費用は車両ごとの乗車人員で負担をお願いします。

申込先：5支部懇親山行京都・滋賀支部担当

〒639-1054 奈良県大和郡山市新町 534-5
電話 0743-54-6685 E-mail iharajac@outlook.jp
伊原 哲士（支部事務局）

会 務 報 告

支部委員会

第 478 回京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2025 年 11 月 5 日(水)

午後 6 時 30 分～8 時 00 分

場所：鴨沂会館新館 1 階 談話室

出席：9 名 欠席：6 名

* 出版について八木監事より

来年 5 月～6 月末印刷仕上がり予定。自費出版の形をとり、ネット販売等も視野に入れ販売価格がわかり次第、販売方法検討。部数によるが販売価格を出来るだけ下げ、一般の山好きな方に向けた販売を目指す。

有志によるカンパだけでなく、支部から捻出する金額は合意が必要と考える。元々の編集担当者にも経緯を説明してもらい、意見を聞く。

* 支部会費

未納者に対して会則を決めるべきではないか？

* 支部だより

原稿の提出は遅れないようにしてほしい。

* PDF 作業→USB へ移行作業中（栗野委員）

* 40 周年記念行事について

人員不足の問題→少人数でやれる範囲の必要性
検討中→京都トレイル、大文字山登山など

宿泊：南禅寺会館

* 山行部会

須藤委員より→担当者が一年間の計画を立てて
計画書を提出してほしい。

* 交通費、編集担当費用→補助金検討。

第 479 回京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2025 年 12 月 3 日(水)

午後 6 時 30 分～8 時 00 分

場所：右京区梅津上田町 茜屋

(委員会と忘年会の為、会場変更)

出席：11 名 欠席：4 名

* 出版について

* 大槻会員より経緯説明

山だけではなく、文化的な JAC を、ということで京都新聞に 39 回掲載された。その後、本にしてはどうかという意見があり、著作権・版権の問題を 6 回にわたり会議をし、その後、斎藤先生の自宅にて巻頭文を先生にお願いをした。先生は発行のルールに乗っていたとおもわれる。第 6 回会議のあと関係者が辞めていった。

* 八木監事より補足：京都新聞社出版部 佐々木氏より注文が出た。京都新聞社から出すとしても 100 万円ほどかかる。版権の問題はクリア。

部数管理・在庫管理は八木監事が行う。ネット販売網を現在模索中。売上高から他予算から出した分を返還していく。

* 幣内支部長

支部会計委員の負担を考慮して出版の会計は別にすべき、出版の会計係をたてる。

第 480 回京都・滋賀支部委員会議事録

日時：2026 年 1 月 14 日(水)

午後 6 時 30 分～8 時 00 分

場所：鴨沂会館新館 1 階 談話室

出席：7 名 欠席：8 名

* 幣内支部長より意見

会議の日程が予めわかっているのに、欠席が多いのは問題。委員を引き受けた以上責任感が必要。委員会のあり方を見直す必要があるのでは？

出版の費用カンパ等の問題点。（一般会員から反応が無い）

会員の減少に伴う会の在り方。このままでは 40 周年記念行事は行えない。

支部だより編集の負担をどうしていくべきか。

* ホームページ

松下会員とサーバー管理の岡崎氏と調整

* 来期役員を選任

2 月末で会計仲井委員が退任。

会員異動

会員入会：

田中 紀代美(会員番号 17596) 2025.11.24 付
〒525-0027 滋賀県草津市野村 5-19-12

会員退会：

瀬崎 暢子(会員番号 17026) 山 2026.1 月
仲井 照雄(会員番号 16929) 2026.2.28 付
足立 みなみ(会員番号 10803) 2026.1.31 付
野上 浩司(会員番号 16358) 2026.3.31 付

会友退会：

轉馬 博之(会員番号 10487 関西支部所属)
2026.3.31 付

お知らせ (ナカニシヤ出版より)

『日本山岳会の歩みと近代登山史』というタイトルで、日本山岳会 120 周年記念本をこの春小社より刊行する予定です。刊行のあかつきにはぜひ、お手に取ってご覧いただけましたら幸いです。

＝あとがき＝

今年 1 月 25 日早朝、雪が降り続き、稲妻が見える中、車で敦賀に向かっていました。福井に顕著な大雪に関する気象情報が発表されていましたが、午後には雪は小止みになり、山の稜線がくっきりと映えていました。双眼鏡で広葉樹林の斜面を見ると林床が明るくて、猛禽の目があれば小動物の動きも見えそうな…

雪山を歩きたいな～と、集落の道から眺めていました。活動報告を羨ましく思って読みました

一のむら

＝次号 163 号 予告＝

2026 年 6 月 15 日発行

原稿締切 4 月 30 日(木)

原稿送付先 編集担当 のむら綾子

新人紹介

◎田中紀代美 (No.17596)

はじめまして、田中紀代美と申します。約 10 年前、妹と金勝アルプスを歩いている時に当時京都滋賀支部の支部長をされていた松下さんに声を掛けていただいたことがきっかけとなり友の会に入会させていただきました。その後、健幸登山教室に参加し、メンバーの方々から比良での沢登りや山スキーをご指導賜りました。先輩方の経験談や人間性に惹かれ今回入会させていただく運びとなりました。

山との出会いは 6 歳で家族と登った三上山と高校の学校登山で登った比叡山、そして、TV のニュースで植村直己さんがマッキンリーの雪原から手を振る姿を観て以来、山に対する憧れが大きくなっていきました。社会人になると、バブルの世の中に馴染めず、県内外の山へ一人逃げ込むように登っていました。私にとって山は現実逃避と安らぎの場所でした。

子どもを持つてからは子ども達とその成長に合わせて低山から高山まで一緒に登り、山登りは楽しみへと変わっていきました。一人で山を歩くことも仲間と山で過ごすこともどちらもそれぞれに良さがあります。今回の入会でまた新たな出会いがありました。皆様と一緒に良い時間を持つてることを楽しみにしております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより 162 号」

発行所 〒610-0121 城陽市寺田今堀 20-6

幣内 規男方

日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 幣内規男

編集者 のむら綾子

印刷 〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

(株) 北斗書房北斗プリント社 北斗書房

TEL 075-606-8540 FAX075-791-7290

関西発日帰り 海をながめる山歩き

草川啓三著 ◎絶景を楽しむ
若狭湾、熊野灘、瀬戸内海、紀伊水道：関西から日帰りで登れる海を見晴らす絶景スポット30コース！海をながめに山へかけませんか。 1760円



森の巨人たち

草川啓三著 ◎巨樹と出会うー近畿とその周辺の山
山歩きで出会ったスギ、ブナ、トチ、カツラなど、様々な巨樹の圧倒されるようなフォルム、個性、生命力。出会いの悦びと魅力を語る。 1980円



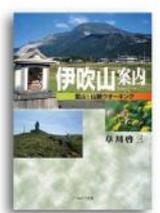
極上の山歩き

草川啓三著 ◎関西からの山12ヶ月
春夏秋冬ひとの心をとらえる珠玉の山の中から、達人がすすめるランキング上位の30山を新スタイルでガイドする。 1650円



伊吹山案内

草川啓三著 ◎登山と山麓ウォーキング
百名山にも選ばれた花いっぱいの名山・伊吹山。ドライブウェイからは見られない、伊吹山の魅力の全てが見えてくるガイドブック。 2090円



山登りはこんなにも面白い

窪田晋二・檀上俊雄・草川啓三・中西さとこ・横田和雄著
◎静かなる私の名山を求めて
自分の意思をもって山に向かっている5人の登山者。それぞれが考える山登りの素晴らしさ、楽しさ、面白さを語る静山紀行。 1980円



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は税込価格です



【木津屋橋本店】
〒600-8248
京都市下京区大宮通木津屋橋下ル
営業時間
月～土 10:00～19:00
※日 10:00～18:00
休日
無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー
075-341-7702
2F/スポーツ車コーナー
075-341-7703



●旧会員証でも構いません●
**日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!**

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱いブランド | DEW WEAR | GORE | SINE | VITTORIO | HED. DOLAN | PINARELLO | BLOK ANCHOR | SCOTT | FOCUS | WILIER | COMANCHE など